



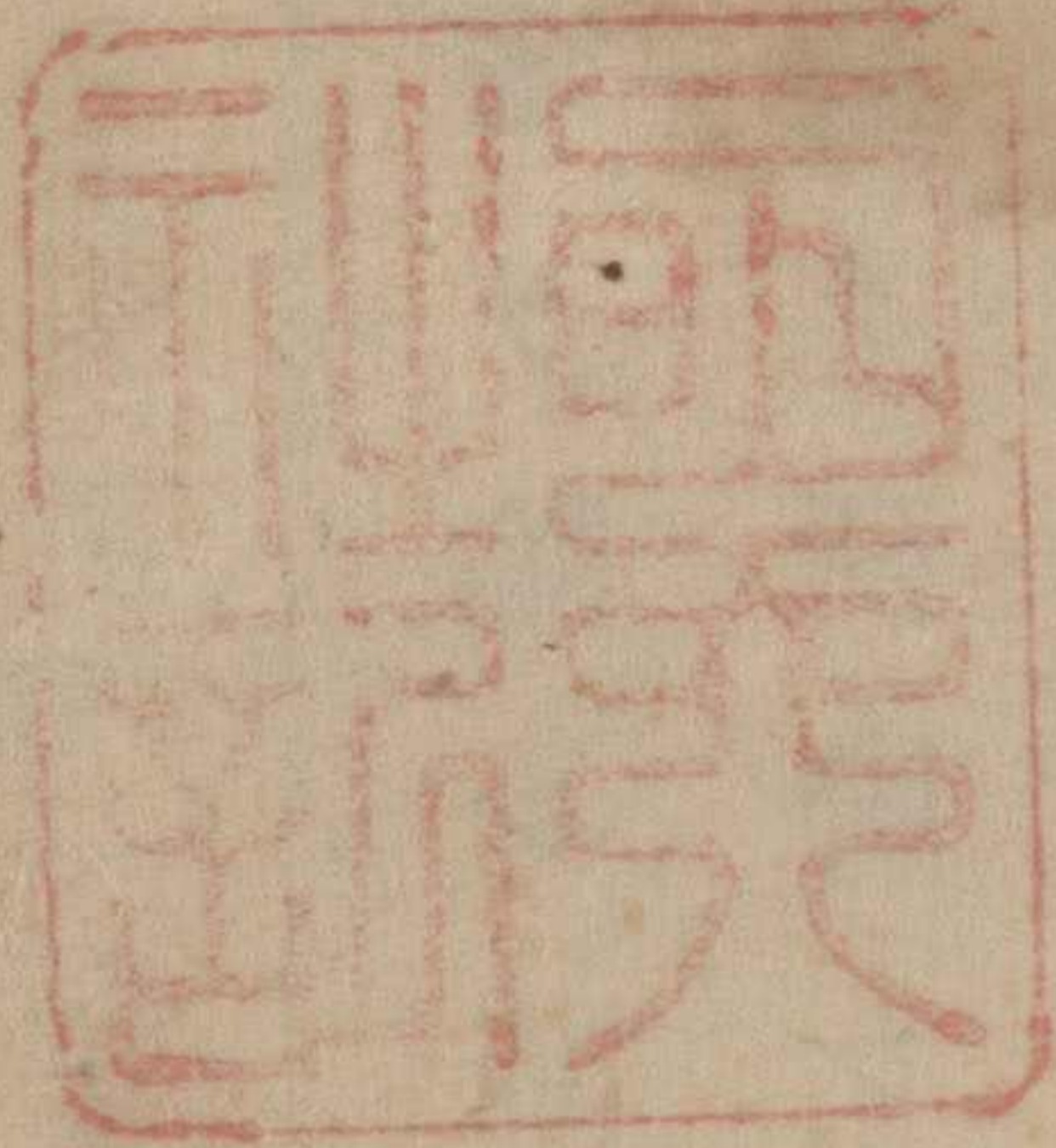
一 福澤先生ノ論ニ答フ

一 學者職分論ノ評

一 非學者職分論

明六雜誌

第二號



定價三錢

頃日吾儕盍簪シ或ハ事理ヲ論シ或ハ
異聞ヲ談シ一ハ以テ學業ヲ研磨シ一
ハ以テ精神ヲ爽快ニス其談論筆記ス
ル所積テ冊ヲ成スニ及ヒ之ヲ鏤行シ
以テ同好ノ士ニ頒ツ瑣々タル小冊ナ
リト雖_モ邦人ノ爲ニ智識ヲ開クノ一
助ト爲ラハ幸甚

明治甲戌二月

明六同社識

明六雜誌第二號

福澤先生ノ學者職分論ハ慶應義塾出版ノ學問ノ勸メ第四編ニ見エタ
リ是先生此社ノ爲ニ著ハス所ニシテ素ヨリ此誌中ニ載スヘシト雖モ
既ニ發兌ニ就クテ以テ爰ニ之ヲ載セス觀者本論ヲ合セテ之ヲ見ルヘ
シ

福澤先生ノ論ニ答フ

加藤弘之

先生ノ御論ニテハ内養

先生論スル所即外刺即人民ノ政府官吏ノ理治ヲ刺衝スル

ル可ラサル内ニモ外刺ヲ以テ殊ニ緊要ト被致候様ニ相見ヘ候夫故御

論中ニ「當時洋學者ハ或ハ字ヲ讀テ義ヲ解セサル歎又ハ義ヲ解シテ事

實ニ施スノ誠意ナキ歎獨リ官アルヲ知テ私アルヲ知ラス政府ニアラサ

レハ事ハ爲セヌ者ト思フ云々」ト云フノ論アリテ洋學者官ニ就クハ甚

不可ナル様ニ云ハレタレモ愚見ニテハ内養外刺共ニ肝要ナル内ニモ

當今ノ如キハ内養ハ更ニ肝要ナル可シト思フナリ就テハ洋學者タル

者其志ス所ニ從テ官務ニ從事スルモ決シテ不可ナルコトハナカサル可シ
先生ノ論ハリベテールナリリヘテール決シテ不可ナルニハアラフ歐
洲各國近今世道ノ上進チ裨補スル最モリベテールノ功ニ在リ去レヒ
リベテールノ論甚ダシキニ過ルキハ國權ハ遂ニ衰弱セサルヲ得サルニ
至ル可ク國權遂ニ衰弱スレハ國家亦決シテ立ツ可ラスフランツト云
ヘル人ノヒシヨロギ、ホン、スタート
書名國家ノ窮ニ「リベテール黨トコ
理ト云フ義
ム、ニスト黨ノ論ハ全ク相表裏スレヒ共ニ謬レリ其故ハリベテール
黨ハ務メテ國權ヲ減縮シ務メテ民權ヲ擴張セント欲ス故ニ教育ノコト傳信
ノコト郵送ノコト其他總テ公衆ニ係レルコトチモ悉皆民人ニ委託シテ決シ
テ政府ヲシテ是等ノコトニ關セシメサルヲ良善トナス然ルニユム、ニ
スト黨ハ務メテ國權ヲ擴張シ務メテ民權ヲ減縮シテ農工商ノ諸業ヲモ悉
皆國家ノ自ラ掌ルチ良好ト爲ス蓋シニ黨各國權ト民權ノ相分カル、所以
チ知ラサレハナリ云々」ト云ヘリ内養チ輕シト爲シ外刺チ重シト爲ス

甚^ダシキニ至ルキハ遂ニ此リベテ¹ル黨ノ論ニ歸スルノ恐レナキ能ハス
因テ考フルニ國務モ民事モ俱ニ肝要タレハ洋學者タル者其才其學ニ
隨テ或ハ官務ニ從事スル者モアリ或ハ私業ニ從事スル者モアリテ偏
セサル方可ナル可シト思フナリ

學者職分論ノ評

森 有 禮

民權ヲ立ルノ一篇意ハ懇チ盡シ論ハ術チ得讀ム者チシテ憤起セシム
ルニ足ル然レモ其說ノ穩當ナラサルチ覺ルモノアリ○其一ニ「一國ノ
全体ヲ整理スルニハ人民ト政府ト兩立シテ始テ其成功チ得ヘキモノ」
ト此レ何等ノ見ナル夫レ民ノ公務ハ國ノ要スル處文事ニモ武事ニモ
セ必ス逃避ス可ラズ各其力チ致シテ之ニ從事スヘキハ論チ待タサル
ナリ何チカ民ト云フ其務チ爲スノ權ト其責チ擔當スヘキノ義トチ有
スル者ヲ指スナリ故ニ官吏モ民ナリ貴族モ民ナリ平族モ民ナリ日本
ノ版籍ニ屬スル者一人モ我民名チ免カル、チ得ス又其責チ擔當セサ

ルヲ得ス而シテ政府ハ萬姓ノ政府ニシテ民ノ爲ニ設ケ民ニ據テ立ツ
處ノモノナリ然レハ則其間ニ政府ト人民ト兩立スルノ理アルヲ知ラ
ス又其狀アルヲ見ス歐洲諸國ノ中王威無限政權一家ノ有トナリテ政
令任意ニ行フヲ以テ民之ヲ好マズ其間ニ不和ヲ生シ騷亂ヲ起シ遂ニ
其威力ヲ限リ政權ヲ多手ニ分チ所謂定律王政或ハ共和民政ノ体ニ變
セシ國多クアレモ未タ政府ト人民トノ間ニ内外對立刺衝調和ノ例又
其說アルヲ聞カス○其說ノ二ニ「世ノ文明ヲ進ムルニハ唯政府ノ力ノ
ミニ依頼ス可ラスト」世ノ文明ヲ進ムルハ政府ノ本務ト爲シ難タシ蓋
シ其責ハ之ヲ知り之ヲ主張スルノ人ニ存ス之ヲ主張スル者ハ各能ク
其地位ヲ察シ世事ヲ爲ス可ケレハ各其意ノ適ル所ニ就テ民ノ義ヲ務
メ世ノ公利ヲ進ムヘシ然レハ官途ニ出テ之ヲ爲スモ又私立シテ之ヲ爲
スモ別ニ差異アルコトナシ福澤先生ノ私立爲業以テ天下ノ人ニ其方向
ヲ示サル、ノ意思ハ先生ノ意思ニシテ嘉スヘク又之ヲ嘉トスル人品

ノ爲ニ快然タル意思ナリ然レモ私立爲業ト在官爲務ト較テ世ノ利害ヲ論セラル、ハ恐クハ未タ其趣旨ノ偏ナルヲ免カレヌ若シ在官爲務ノ公益私立爲業ノ世利ニ及ハスト云フ時ハ學者ハ皆官途ヲ去リ不學ノ者ノミニ政府ヲ托シテ始テ世利興ルト云フニ至ルナリ思フニ先生ノ高見亦必シモ然ラス蓋シ是レ憂國ノ厚情此ニ至ル者其附録ノ如キハ若シ之ヲ除カハ更ニ一段ノ佳味ヲ生セン歟

學者職分論ノ評

津田眞道

國家ヲ人身ニ譬フルハ可ナリ政府ハ生力ノ如ク人民ハ外物ノ如シト云ヘルハ譬ヲ失スルニ似タリ抑人民ヲ身外ノ刺衝物ニ比スレバ國外ノ物ニ比スルナリ然レモ人民ハ國內ノ人民ニテ國內ノ物ナリ蓋外物ノ刺衝ハ外國ノ交際ヲ以テ之ニ比スベシ余ハ思フニ政府ハ猶精神ノ如ク人民ハ猶軀骸ノ如クナリ蓋精神ト軀骸ト相合シテ人身ヲ成シ政府ト人民ト相合シテ國家ヲ成ス體骸アレモ精神ナケレバ死人ナリ精

神ノミニテ體骸無レバ人ニアラズ又人民アレハ政府ナケレバ國ヲ成
サズ唯政府ノミニテ人民ナケレバ更ニ國ヲ成サズ而シテ體骸ハ惟精
神ノ命ノマヽニ是從フベキ者ト思ヘト然ラズ體骸ニ體骸天然ノ確律
アリ此確律ヲ過キテ強テ體骸ヲ使役スレバ精神モ從テ勞シ人身衰弱
シ遂ニ死亡ニ至ル若夫天然ノ確律ニ從テ體骸ヲ使役スレバ身體愈健
康ナリ然ルニ方今我國ノ有様人民ニ私立ノ氣象アル者甚乏シク唯乏
シキノミナラズ殆絶無ト謂フベシ憂フベキノ甚シキ者ナリ其ハ故來
ヨリ無限君主ノ國風ニテ政府ノ命ハ譬ヘ無理ナルコトニテモ從ハザル
ヲ得ズ衆人皆啼兒ト地頭ニハ勝タレヌモノトヲモヘリ此有様ハ重大
歎息ニ絶タル有様ニテ國力ノ更張セザル原因全此ニ在リ故ニ力ヲ盡
シテ人民自由自主ノ說ヲ主張シテ喩ヘ政府ノ命ト雖無理ナルコトハ之
ヲ拒ム權アルコトヲ知ラシメ自主自由ノ氣象ヲ我人民ニ陶鑄スルハ我
輩ノ大ニ望ム所ナリ此事ハ在官私立ニ拘ラズ各其地位ニ從ヒ其人相

當ニ盡カスルコト出來ベキナリ然ルヲ我輩皆官ヲ去リ私ニ就カザレバ
出來ズ云ヘルハアマリ慊ナルベシ

非學者職分論

西 周

本論立意明快然リト雖モ間然スルナキコト能ハス今其欸ヲ縷拆スル左
ノ如シ

第一立論ノ本意本邦ノ獨立疑フヘク危ムヘキ者アルヲ起本トシ結末
學者私立シテ之ヲ維持スヘキヲ以テス夫所謂疑フヘキ危ムヘキ者ハ
概括ノ意想ヨリ取ル下文論スル所氣風ノ如キ是ナリ故ニ一ツモ事實
ニ本キタル者ニ非ス然ラハ則チ獨立ノ上ニ一點ノ疑ナキ能ハスト云
フ者ハ極メテ疑似ノ間ニ根據スル者ニシテ此疑似ナル者ヲ以テ學者
ヲシテ私立ヲ謀ル爲メニ概シテ官ヲ辭セシメント欲スルハ蒸氣ヲ化
シテ固堅質トナスカ如シ一理ナキニハ非スト雖モ致知學ニ於テ詭論
ニハ屬ス可カラズ乎

第二政府ハ依然タル專制ノ政府人民ハ依然タル無氣無力ノ愚民云々
此言切ニ當今ノ肯綮ニ當ルト謂フヘシ然レ奈何セシ由來スル所朝夕
ノ故ニ非レハ之ヲ改メント欲スルモ恐クハ一旦ノ行爲ヲ以テ其凱捷
ヲ得ヘキニ非ス夫本邦ノ如キ創ムルニ神教政府ヲ以テシ助クル秦皇
ノ制度ヲ以テシ繼クニ武治ノ政府ヲ以テシテ二千五百年間抑壓ト卑
屈ト以テ常食トナシタル者ナリ維新頗ル洋制ヲ參スト雖レ明ケテ僅
カニ七年况ヤ維新ノ以テ立ツ所其初亦尊王攘夷ニシテ抑壓ト卑屈ト
ヲ以テ米ノ飯ト澤庵トナスニ於テヤ今遽カニ日ニ撻テ其楚タラシ求
ムレ鳥ヲ見テ炙ヲ求ムルノ太早計ニ非サルヲ得ヤ而テ是特ニ本邦ヲ
然リトスル耳ナラス雪山蔥嶺ノ東北ニ當リ今古未ダ此風習ヲ脱スル
ノ政府ト人民トアルヲ觀ス

第三學術商賣法律外國ニ及ハス三者擧テサレハ國ノ獨立ヲ得サルヲ
識者ヲ俟スシテ明カナリト是眞ニ然リ然ト雖レ事由ヲ考ヘスシテ慢

ニ之ヲ憤ルモ亦徒爲ニ屬ス所謂學術ナル者七八年前マテ四書五經ノ
範圍ニ出ス而テ其四子六經スラ唯玩具之ヲ卑ウシテハ茶ノ湯生花ト
肩ヲ並ヘ之ヲ高ウシテ弓馬劔槍ト相伯仲シタル耳而テ今遽カニ西洲
ノ學術ト馳驟相競ハント欲スルモ亦難カラスヤ余ハ則チ以謂ヘラソ
所謂西洋學術ノ如キ世ノ大家先生ト稱スル者モ未タ其蘊奧ヲ究メタ
リト謂フヘカラス故ニ今ノ計チスルニ苟モ入ル其門ヲ得レハ則チ可
ナリ所謂舉ルト云者ハ姑ク來裔ヲ待ツヘキナリ其商賣ナリ法律ナリ
亦如此キ耳况ヤ法律ノ如キ唐明ノ故套ニ參スルニ僅々西洋ノ意ヲ以
テスルノミ判官ナリ狀師ナリ公事方留役ト公事宿トノ舊ヲ免ル、
亦何レノ日ニ期スヘキ哉豈之ヲ西洋ニ比シテ其舉ルト舉ラサルトチ
謂フヘケンヤ

第四青年ノ書生僅カニ數卷ノ書ヲ讀メハ乃チ官途ニ志ス是名望ヲ得
タル士君子ノ風ニ倣フ者ナリ云々此言ノ源由ヲ推ス然ラサルニ似タ

リ此源由ハ全ク學資ナキト糊口ニ逐ハル、ト又上ニ洋書ヲ讀ム人ヲ
欲スル等ヨリ起ル者ナリ且ツ思ヘ舊幕ノ中葉讀書人ヲ視テ狂トシ顛
トス讀書人亦自ラ甘ンシテ世務ヲ知ラズ政事ヲ言ハサルヲ以テ自ラ
居ル其世務ヲ管スル人ハ往々ニシテ刀筆吏ヨリ出ツ今ハ則チ書生ヨ
リ出ツ是蔽風ト曰フト雖ヒ前日ニ較スレハ世運稍歩チ進ムルニ似タ
リ

第五新聞紙ヲ出版シ政府ニ建白スル者ハ槩皆世ノ洋學者流ナリト是
亦然ラサルニ似タリカノ諛辭ヲ陳チ卑屈ヲ表スル者概チ神教政學家
ニ淵源スル者ナリ之ヲ以テ洋學者ノ所以トナスハ頗ル窺タルヲ覺フ
ルナリ

第六政府ハ猶人身ノ生力ノ如ク人民ハ猶外物ノ刺衝ノ如シト此生力
刺衝ノ論即チ論中ノ脉絡然ヒ余此論ニ疑ナキ能ハス所謂刺衝果シテ
適宜ナラハ可ナラン然ヒ刺衝若シ過激ナラハ生力元氣ノ素ヨリ衰弱

ナルニ乘シ却テ餘症ヲ發スルノ恐レナキヲ能ハス譬ヘハ患眼ノ人ノ
如シ光線ノ刺衝殊ニ甚シキハ害タル甚キニ非ス所謂刺衝ナル者人民
ノ開明進歩ヨリシテ漸次ニ立タハ則チ適宜ニシテ可ナラン若シ強テ
之カ刺衝ヲ起サントセハ恐クハ過激タルヲ免レス凡ソ此等ノ事人爲
ノ能ク爲ル能ハサル者アリ一旦刺衝ノ機萌動スルニ及ンテ亦如何
爲ヘカラサル者アリ乃チ民間志氣ノ振フナリ社會ノ立ツナリ極メテ
可ナリ朋黨ノ興ルナリ遂ニ一揆ノ始マルナリ極メテ不可ナリ故ニ所
謂刺衝其方ヲ得レハ英米是ナリ苟モ其方ヲ得ス其度ヲ失ヘハ佛朗西
ナリ是班牙ナリ亦鑑ミサル可ラサルナリ凡ソ此等ノ事世ノ勢ニ關ス
一人一策ノ能制裁スル所ニ非ス一黨立テハ二黨興ラサルヲ得ス而テ
勢ノ蔓延スル所三ナリ四ナリ五ナリ豈窮極アラシヤ則チ支離決裂亦
至ラサル無ウシテ所謂般鑿遠カラス夫ノ天狗連ニ在ラントス
既ニ政府ヲ生氣ナリト謂フ乃チ其生氣ヲ鼓動スルノ幾那鹽無カルヘ

カラス是政府ニ仕フルノ學者無カルヘカラス既ニ人民ヲ刺衝ト謂フ
乃チ刺緩ヲ適宜スルノ溫度無カルヘカラス是學者ノ私立モ亦無カル
ヘカラス然ルニ今一偏ニ私立ヲ主トシテ其生氣ヲ養フコトナキ時ハ譬
ヘハ皮膚弛緩ノ人ノ酷寒ニ逢フカ如ク幾ハクカ其_レ胃寒發熱變シテ夫
ノ疫癘トナラサル

余ノ論ハ則以謂ラク人々所長ヲ異ニシ又志趣ヲ異ニス故ニ均シク洋
學者ト雖_レ或ハ政府ニ在テ事ヲ助ケ或ハ私立シテ事ヲ成ス共ニ不可
ナル者ナシ唯余ノ如キハ聊カ翻譯ノ小技ヲ以テ政府ニ給仕スル者固
ヨリ萬一ニ補ナキヲ知ル故ニ久シク先生ノ高風ヲ欽慕ス今未ダ遽カ
ニ決然冠ヲ掛ル能ハスト雖早晚將ニ驥尾ニ附カントス

稟 白

一代價ハ每号不同に付豫め決定仕兼候得共前金にて發兌號々先二十冊分御引受ハ一割引五十冊分ハ一割半百冊分ハ二割引にて差上過不足ハ追て算當の上可申上候

一府下にて御望の方ハ町所名前御投書次第發兌毎に配達可仕遠國ハ府下にて御引受の御方より前金郵便税共受取不申内ハ遞送不仕候

東京藥研堀町

賣捌所 報 知 社

明治七年三月

東京日本橋釘店

取次所 和泉屋壯造

